

各 関 係 大 学 長
各 関 係 大 学 学 部 長 殿
各 関 係 機 関 の 長

国立感染症研究所長
(公 印 省 略)

細菌第一部長の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、当研究所では細菌第一部長の選考を行うことになりました。

細菌第一部においては、腸管系細菌感染症、全身性細菌感染症、環境細菌由来感染症、口腔細菌感染症及びスピロヘータに起因する感染症に関し、次に掲げる事務をつかさどっています。

- ① 病原及び病因の検索並びに予防及び治療の方法の研究（これらに関するレファレンス業務を含む。）及び講習を行うこと。
- ② 予防、治療及び診断に関する生物学的製剤（細菌ワクチン及び細菌感染症診断薬に限る。）、抗菌性物質及びその製剤（抗生物質医薬品に限る。）並びに消毒剤の生物学的検査、検定及び試験的製造並びにこれらの医薬品及び医薬部外品の生物学的検査及び検定に必要な標準品の製造並びにこれらに必要な科学的調査及び研究を行うこと（他部の所掌に属するものを除く。）。

また、当部では、特に食中毒関連の腸管系細菌感染症、レジオネラ感染症、肺炎球菌感染症等の細菌学及びこれらに関する予防（肺炎球菌ならびに髄膜炎菌に対するワクチンを含む）・治療法及び感染原因究明等の問題について、国内外の各種委員会から科学的立場からの意見や判断を求められます。

つきましては、貴学（学部、機関）、貴所または関係機関におきまして適任者がおられましたら、下記によりご応募賜りますよう周知方よろしくお願い申し上げます。

記

1. 候補者資格条件

- ① 病原細菌および細菌感染症に関する豊富な研究実績と経験・知識、総合的な高い見識を有すること。
- ② 行政機関や医療機関ならびに大学等研究機関と連携して、公衆衛生学的に重要な細菌感染症の調査研究を推進する能力を有すること。
- ③ 所管するワクチン等の品質管理に対し意欲を有すること。
- ④ 国際共同研究を推進する能力を有すること。
- ⑤ 統率力と指導性があり、部をまとめる能力を有すること。

⑥ 学位（博士号）を有すること。

2. 提出書類

- ① 履歴書（A 4 縦版横書き、氏名、性別、生年月日、本籍（都道府県名）、現住所、学歴（高等学校卒業以降）、学位、職歴、1 カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、国内外の委員歴、賞罰、健康状況等）
- ② 業績目録（A 4 縦版横書き、別紙様式をご参考下さい。）※corresponding author（責任著者）論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入してください。
- ③ 主要論文の別刷（写し可）10編以内
- ④ 主要研究概要（A 4 縦版横書き1枚程度）と応募職への抱負（A 4 縦版横書き1枚程度）

3. 応募締切日 令和2年10月19日（月） 必着

4. 選考採用試験

- ① 書類選考 令和2年12月中（予定）
- ② 面接 令和2年12月18日（金）または24日（木）（予定）
（第一候補予定日：令和2年12月18日（金））
（面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。）

5. 採用予定日 令和3年4月1日（予定）

6. 書類提出先 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所長宛
て応募書類の封筒には「細菌第一部長応募」と朱書の上、親展とし、書留で郵送して下さい。
なお、提出された書類は返却いたしません。

7. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部総務課人事係 横川・刑部
電話：03-5285-1111（代表）内線2024
E-mail：jinji@nih.go.jp

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文(学会誌発表等)

(1) 欧文

(2) 邦文

3. 学会発表(講演・発表等)

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

(記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。
(例: Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に()書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎
(他炎症の組織病態
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎
(単)ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇〇
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□□
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年